

令和3年度(2021年度)事業報告書

2020年10月1日から2021年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

今年度の各事業の活動の前提として、COVID-19感染症の拡大により、ベトナム入国やベトナム国内における様々な制約がありましたので、まずその状況の概要を報告いたします。

2020年7月にCOVID-19の感染症がDanangを中心として発症が拡大したものの2020年11月ごろには落ち着きを見せ、日本からも11月中旬ごろから臨時特別便が飛ぶようになり、服部医師は当初2020年12月初めに訪越を予定していました。しかしながらフライトが突然キャンセルされ、1か月の延期を余儀なくされたため、ようやく1月中旬に訪越することができました。しかし、隔離期間中の2021年の1月末にハノイ近郊のクアンニン省とハイズン省にてCOVID-19の感染拡大が起きたために、服部医師の隔離期間が(1月27日に開催されたベトナムの国家感染症対策会議を受けて、1月28日より2週間から3週間に延長され、)2月の初めに終了の予定が1週間ほど伸び、そのために約束をしていた在越ホーチミン総領事との面談や在越日本国全権大使との面談ができませんでした。2021年1月末に発生した感染は公安省の(F0=感染者、F1=濃厚接触者、F2=濃厚接触者の接触者、F3=その家族)の強力な移動制限および隔離により一旦は抑えられました。

このような状況の中、服部医師は、2021年5月7日に再び、訪越するために書類などをすべて準備していましたが、4月末から新たなCOVID-19(デルタ株)の感染拡大が発生し、その感染の拡大の勢いが今回の尋常ではないことから、在越日本国大使館の知り合いに連絡を取ったところ渡越は控えた方がよいとのアドバイスがあり、一旦感染が収まったことで隔離期間が2週間となっていました。再び国家感染症対策会議を受け、隔離機関が1か月となったため、訪越を断念しました。その後、8月に再度渡越の予定をしていましたが、ワクチンパスポートがまだ認められず、ベトナムでの隔離期間は依然として2週間とされています。在日ベトナム全権大使のNAM大使との面談で、2021年9月ごろよりベトナムはワクチンパスポートを導入する予定としているが、日本政府次第だ」という情報を教えてください、次年度の2021年度の10月以降に渡越を予定しています。仮にベトナム政府と日本政府がワクチンパスポートで合意をすれば、ベトナムでのホテルで隔離は1週間、さらに自宅での隔離も1週間と合計2週間の隔離を余儀なくされ、さらに自宅待機時には、2回のPCR検査を求められています。しかし、日本に帰国した時の対応は異なり、ベトナムからの帰国者には3日間のホテルでの強制隔離が義務化され、帰国時そして3日後にPCR検査をして陰性であれば、自宅に帰ることができ、3日間の隔離期間を含め、2週間の自宅隔離とされています。以上が、COVID-19感染による様々な制約でした。

今年度の技術支援事業については、上記のように在越ホーチミン総領事との面談や在越日本国全権大使との面談ができなかったことなどから、ハノイ医科大学と日本国際眼科病院における医療技術指導だけに終わりました。

なお、木下教授が中心にされているタイのチュラロンコン大学との交流における技術支援事業についても現状では、ZOOMによるオンライン会議などにより行われ、人の交流は一時停止しています。

治療支援事業については、上記で説明をしましたように、2020年12月に服部医師が訪越し、Dak Lak省にてプロジェクトを行う予定でしたが、突然行けなくなりましたので、人民委員会に委任状を提出し、Hung医師を団長としたプロジェクトにより実施しました。なんと2日間で170名の患者さんの手術を行ったようです。服部医師自身がベトナムにおいて参画できない日が必ず来るのではないかと想定のもと、あえて手術室には入らずに外回りの点眼や眼内レンズ選びなどに徹して仕事をし、彼らだけで手術の準備からプロジェクトが将来行えるように備えていました。このことが功を奏したようです。すでに述べましたとおり、2021年3月には2021年1月末からの感染拡大が収まり、3月にはプロジェクトが行える状況となりましたので、先のプロジェクトと同じように委任状を人民委員会に提出し、Hung医師を団長として南部のBinh Phuoc省でプロジェクトを行うことになりました。カンボジアボーダー近くにある地方ですので移動に8時間を要するために、ハノイ市内を朝の4時ごろには出発し、ハノイでの空港のチェックインに1時間以上要しますので、ハノイ発のフライトが朝の6時半のフライトでもこのように朝早くに出発しなければなりません。ホーチミンの空港に着いても荷物のピックアップや車への詰め替えに1時間かかります。それから車で4時間かかる場所です。行く途中にいつも利用する絶好の食堂で腹ごしらえをして現地に向かいます。そのようにしてBinh Phuoc省では90名の患者さんの手術を無事に終えることができました。5月になって、Quang Tri省でのプロジェクトを予定し飛行機のチケットも購入していましたが、4月末からの感染拡大の勢いが衰えないために、感染者がプロジェクトチームにでると大きな問題となるために、慎重を期してHung医師の判断により前日にキャンセルとしました。現地には大変申し訳ないと謝罪し、現地も感染状況を理解していましたので大きな問題とはならず、結果的には良い判断であったように思います。

その後、ベトナムでのCOVID-19の感染は日々拡大し、8月に入り急拡大し、8月当初は3000人~4000人でしたが、その後は毎日11,000人前後で推移しており、8月末現在、感染者数462,096人、入院者数212,168人、回復者数238,860人、死者数11,064人とベトナム政府より発表されました。ベトナム政府は懸命に感染を抑え込もうと懸命になっていますが、ワクチン不足は否めず、感染がベトナム全土に広がりを見せています。感染が特にひどい地域が、ホーチミン市とその近郊のビンズオン省で、その2つで約8,000人が毎日発症しています。この感染を抑え込むために開催される国家感染症対策会議においてハノイ医科大学のHieu院長が陣頭指揮を執ることになり、現在はビンズオン省の感染の抑え込みに奮闘しておられます。

ところで、ミャンマーでのプロジェクトは皆さまがご存じのように、2021年2月に軍がクーデターを起こして、軍事政権となりいまだに厳戒例が敷かれており、人々の外出もままならない状況であり、また病院が機能していないために、COVID-19の感染の拡大もひどく、今年度また来年度も政権が落ち着くまでは、医療支援を実施することは見合わせざるを得ないと考えています。

医療物資支援については、Quang Ninh省は服部医師が行かないと現地の人民委員会がプロジェクトの許可をださないために、現地で一番手術を行っていますQuang YenからきているAPBAのチームの一員でもあるChing医師より、白内障機器が故障し修理が不可能との連絡があり、Quang Ninh省は非常に貧しい地域であり、また感染者がほとんどゼロに近いことから通常の生活を送っているために、手術を希望する患者さんも多く、新しい白内障機器の寄贈とこれまでAPBAのものを貸し出していた顕微鏡の代わりに新しいものを寄贈いたしました。また、Ca Mau省は2021年の7月にプロジェクトを予定していましたが実際にはいけませんでした。2019年に在越ホーチミン総領事館に行ったときに、カマウ省への支援をお願いしていましたが、2020年になって白内障手術機器などなどの寄贈がされました。しかし肝心の顕微鏡が不足していたために、APBAが寄贈することとなりました。

宣伝広告については、服部医師が各地で講演活動を行ったり、企業回りをし、助成金や寄付金などを申し出ただけの企業を探したり、NGOや公的機関に助成金申請を積極的に行っています。このコロナ禍でも、ソーシャルディスタンスを守り、リモートなどを活用しながら、企業グループの勉強会を開催するなどを行いました。他方、理事の方々にはお一人に1社の法人会員を増やすことにより法人会員を新たに10社増やすことを目標として努力をお願いしていましたが、コロナ禍で移動制限のある中においても、最低1社を獲得していただきたいと思いましたが、まだそれに至っていないことを非常に残念に思います。現在はHPやFBなどを活用して、私たちの活動を紹介していますが、理事の皆様には是非ともご協力をいただきたいと思います。

2021年度事業報告書

(法第28条第1項関係)

2020年10月1日から2021年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	予算書 (千円)	支出見込み額 (千円)
医療技術指導①	眼科医療技術の教育・指導・普及や医療技術スタッフの派遣	年度内3回 37日 2020年10月～ 2021年9月	◎ベトナム ハノイ市（ハノイ医科大学付属病院、日本国際眼科病院） ◎ベトナム-ダックラック省・ピンフック省 その他のベトナムの地方での支援はCOVID-19の感染の拡大のため中止 ◎ラオス-ピエンチャン・サバナケート・ルアンパバール地方病院などで網膜硝子体手術および超音波白内障手術とその指導・教育 ミャンマー・ラオスでの支援はCOVID-19の感染の拡大のため延期	7名	ベトナムの看護師など医療スタッフ	6790	3,284
医療技術指導②	アジア諸国と日本の眼科医療従事者の技術・情報交流の促進	年度内0回	東南アジアにおけるCOVID-19の感染の拡大のため延期	0名	該当者なし	740	0
治療支援①	貧困により目の治療ができない人々への治療の斡旋・支援や眼科検診などの啓発活動	年度内3回 275名	◎ベトナム ハノイ市・フエ市・ハイフォン市 ダックラック省・ピンフック省 ◎ラオスはCOVID-19の感染の拡大のため延期 ◎ミャンマーは2021年の軍事政権に変わり厳戒令がでているためと、COVID-19の感染の拡大のため延期	12名	ベトナムの貧困層の人々	7890	7,191
治療支援②	アジア諸国の眼科患者の日本での治療の斡旋、支援	年度内0回	東南アジアおよび日本国内でのCOVID-19の感染の拡大のため延期	1名			0
物資援助	眼科医療資機材などの提供	年度内4回	ベトナム		ベトナム国内の地方の医療センター	5000	7,509
広報活動	ホームページ・DVD/レター・企業訪問・講演会やFBによるPR活動・チャリティーパーティーなど	随時公開	日本国内	4名	広く一般に	2500	2,376